

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 エムポの木		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 2日		～ 令和8年 3月
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同じ学園内の保育園・こども園との連携を大切に、日々の様子や発達状況を共有しながら、子どもたち一人ひとりに合わせた支援を行っています。	保護者との面談や、日々の連絡を通して、支援のねらいや子どもの成長の様子を丁寧に伝えられるようにしています。 関係機関との情報共有をおこないながら、子ども一人ひとりに合った支援を継続して行えるようにします。	個別支援計画の説明や面談の機会を増やし、保護者との支援内容の共有を行っていきます。 必要に応じて担当者会議や情報交換をおこない、関係機関と連携した支援を進めていきます。
2	保育士3名と保育補助員1名の体制で、子ども一人ひとりの発達や気持ちに寄り添いながら、丁寧な理解と支援を行っています。	職員同士の話し合いの機会を大切に、子ども一人ひとりの様子や発達の状況を共有しながら支援を行うとともに、日々の関りを振り返りながらより良い支援に繋がっています	より良い発達支援が行えるよう、研修等を通して教材作りや支援方法を学びながら、支援内容の充実を図っていきます。
3	子ども一人ひとりの発達や特性に合わせた個別支援を大切に、安心して過ごせる環境作りに努めています。	個別のタイムスケジュールを取り入れ、子どもが見通しを持って安心して個別支援活動に取り組める環境作りを行っています。	その日の振り返りを基に、子どもの発達や特性に合わせた支援内容を検討し、職員間で教習しながら安心して活動に取り組める環境づくりの充実を図っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開所間もないことから、法令や行政の基準に関する理解や運用について、現在も確認・整理を進めている段階です。	開所間もない為、法令や行政の基準に関する理解や運用についての経験が十分でなく、確認を行いながら対応している状態です。	法令や行政の基準に関する理解を深める為、研修への参加や資料の確認を継続的に行うとともに、職員間で情報共有を図りながら、適切な運営体制の構築に努めていきます。
2	支援者が保育士中心の体制であるため、移行支援における年長児への支援については経験の蓄積が十分ではありません。	保育士としての就学前時の支援経験が中心であり、小学生への移行支援に関する実践経験が十分に蓄積されていないことが要因です。	小学生への移行支援に関する理解を深める為、研修への参加や資料の活用を行うとともに、関係機関との連携や事例の級友を通して支援の幅を広げていきます。
3	地域の関係機関との連携について、経験の蓄積が十分ではありません。	開所間もない事から、地域の関係機関との連携機会が限られていることが要因です。	地域の関係機関との連携機会を増やすため、学校や相談支援事業所等との情報共有や連携を積極的に行い、支援体制の充実につなげていきます。